

森と共に生きるまち宍粟の みどりじまん新聞



Vol. 2

令和2年4月号

ガス等ライフラインがとだえること
があります。また、化石燃料には、
限りがあると言われていて、今後の
日本社会におけるエネルギーとの付
き合い方を考えていかなければなり
ません。

「森が生みだすエネルギー」

「薪 MAKI・TAKGI」

皆さんは、薪（まき・たきぎ）「写真1」を使っ
たことがありますか。薪は木の幹や枝を切ったり
割ったりしてつくる燃料です。今回、市内で薪の
普及（ふきゅう）を提案されている「小川建築・小
川ストープ」において、インターンシップ（学外
就業体験）で体験した活動や、代表の小川さんか
ら学んだことをふまえ、森が生みだすエネルギー
について、ご紹介します。

日本では、電気・ガス・石油等が普及するまで、



薪（まき・たきぎ）【写真1】

薪は毎日のように使
用されるエネルギー
として、生活に欠か
せない、とても重要
な資源（しげん）で
した。現在の日本
では、主に海外か
ら輸入する化
石燃料をエネ
ルギーとして利
用していま
すが、近年多
発する豪
雨や地震
などによ
る自然災
害では、電
気や

「薪で『火』のある暮らしを・・・」

そこで、かつて身近に使われていた『薪』に再
び注目が集まっています。実際に東日本大震災の
時には、港や道路が使えず、燃料がなくなり、避
難所（ひなんしよ）では、木材を燃料として体を
暖めたり湯沸かしに利用されたりしていました。

小川さんは、木の特性を生かした昔ながらの住
宅「石場建ての家づくり」に取組みながら、薪スト
ープ「写真2」や薪ボイラーの設置工事から薪づく
りまで、薪の普及に向けた幅広い取組みを実践（じ
っせん）されています。



薪ストーブ【写真2】

としてあげられています。
リラククス効果や免疫力
（めんえきりよく）を高
める効果、アレルギーを起
しにくい家づくり、他のエ
ネルギー源にもなります。
これらは、くり返し使える
資源として、もともとは生
活に身近な素材でした。薪
ストープは、このうちの
「火」のある暮らしにつな
がっています【写真3】。
薪ストーブは、すぐにで
きるものではありません
が、私たちの身の回りのエ
ネルギーを見直すきっかけ
として、ご家族とのキャン
プなどで薪を使ってみるこ
とから始めてみませんか。



薪ストーブとかまど【写真3】

「みどりじまん新聞」は

“木育（もくいく）”の視点を持って「森と共に生きるまち“しそう”」が誇る“みどり”の魅力を発信し、森や木に関心をもってもらうことを目的としています。発行にあたっては、「兵庫県立森林大学校」の学生が執筆し、学校での学びを生かして人と木や森林との関わりを伝えてもらいます。

「薪ストーブの活用あれこれ」

薪がもたらす炎にはいやし効果がありません。薪ストーブの燃料には、広葉樹や針葉樹に限らず、竹や住宅を壊す際の廃材（はいさい）なども使用できます。ただし、乾燥が不十分なもの、木材を接着剤でつなげた集成材（しゅうせいさい）や塗装（とそ）されたものは、ススや有害な煙がでるため使用できません。乾燥には1〜2年必要です。排煙（はいえん）のための煙突（えんとつ）には、2つの器具を接続することができます。「写真3」では、「薪ストーブ」と「かまど」が接続されていますが、組み合わせの例として、お湯をわかす薪ボイラーと五右衛門風呂（ごえもろ）もあります。

また、薪ストーブは冬に暖房として利用するだけではなく、梅雨（つゆ）時期などには、熱くならない程度に火をおこすことで、湿気（しっけ）をとることが出来ます。その他にも、熱を利用して料理することや発電にも利用でき、スマートフォンを充電しながら、お湯をわかす、なんていうこともできます。

薪を使ってみよう！

宍粟市内にある兵庫県立国見の森公園では、薪を使ってピザやバームクーハンづくりなどの体験ができます。



ピザづくり体験[写真4]

「薪の活用と地域の発展がつながる!」

薪の活用を通して、皆さんに考えてほしいことがあります。

まずは森林整備について

適切な時期に間伐（かんばつ）などを行うことで、健康で豊かな森になり、土砂災害や川の氾濫（はんらん）を防ぎ、安心して暮らすことができます。環境づくりにつながります。

次に持続可能な生活について

日頃から薪を燃料として使い、薪を備蓄（びちく）しておくことは、もしものときに私たちの生活を続けるために大切なことです。もちろん、火のたき方を知っておくことも必要です。

最後に地域での利益循環について

海外から輸入した化石燃料を地域で生産された薪にかえることで、「まちから出ていくお金が減る」薪の売上げでまちが潤（うるお）う。まちでの仕事が増える。人口減少が止まる、または移住者が増える「ことにつながるのではないだろうか。」

市の面積の約90%が森林である宍粟市。私たちの身近にある木を資源として生活の一部に取り入れ、まちの活性化につなげてみませんか？



～木が好きな人を育てる「木育」のか・き・く・け・こ～

宍粟市では、木が好きな人を育てる取組みを進めるにあたり、「か・き・く・け・こ」の視点（してん）を大切にしています。木を使うだけではなく、木を使う理由や環境などへのつながりを意識しています。

- か**んきょうを守る：木を使うことと環境（かんきょう）を守ることがつながっていることを理解する
- き**の文化を伝える：木にふれ、木でつくることを通じて、木を使う技術や木の文化を継承（けいしょう）する
- く**らしに木を取り入れる：木の良さを感じ、暮らしに木を取り入れることで、自給自足につながる
- け**いざいを活性化させる：地元の木をもっと使っていくことで、森林・林業・林産業を活性化させる
- こ**どもの心を豊かにする：木のもつ可能性を生かし、子どもの心を豊かにする



専修学校
兵庫県立森林大学校
Hyogo Prefectural College of Forest Management

兵庫県立森林大学校は、森林経営や森林林業に関わる人材を幅広く育成する学校です。オープンキャンパスは夏休み期間に実施予定。
学校見学は随時受付中です。事前に電話等でご連絡ください。



県立森林大学校 HP